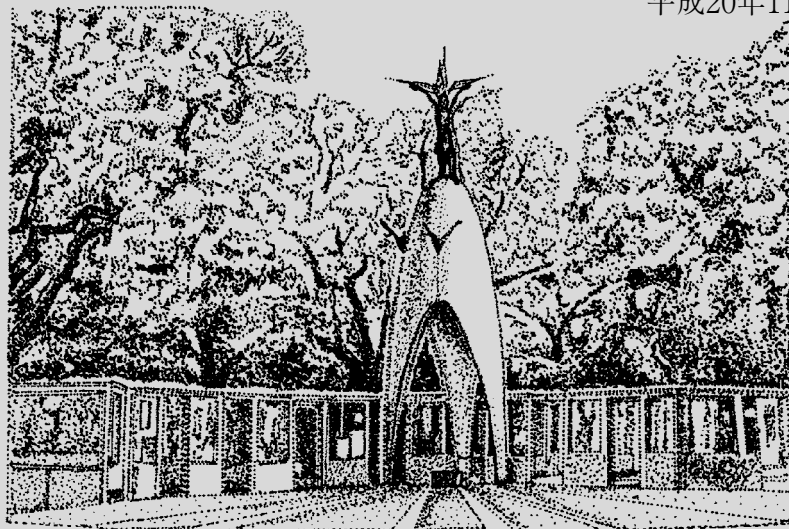


所報



巻頭言

学校を変える授業研究

国立教育政策研究所研究企画開発部 総括研究官 チチブ トシヤ 千々布 敏 弥



ある小学校の国語の授業研究に参加したときの話。

授業者は50代のベテラン教師。クラスの子どもは把握できているが、どこか表面的な仲良さととどまっている気がする。次々に手が挙がるのだが、発言内容に流れがない。教師の間に答えようという思いだけの子どもの発言が、脈絡なく繰り出され、教師もそれらを忠実に黒板にメモしていく。授業の最後に子どもたちは物語文中の登場人物への手紙を書いたが、登場人物の心の動きの読み込みが浅いことが手紙の文面に表れていた。

そのような授業のあとの検討会。子どもの活発な活動をほめる発言が相次いだ。最後に、子どもの読み込みが浅いのではないかと指摘する発言があった。それに対して授業者は、子どもの読み込みは十分と反論した。子どもが研究授業に熱心に取り組んでくれたことをもっと評価して欲しいとも言っていた。

このような場面でどう協議を流せば、この教師が自らの教材研究の浅さを自覚し、子どもとの交流を見直すようになるのか、私の現在の問題意識はここにある。少なくとも、校長や指導主事に同様の問題意識をもつていただきたい。多くの管理職が、表面的に学校運営を流すことを第一に考え、職員を伸ばそうと考えていない。

広島市教育センターの指導主事は、現場によく出向いている。現場との交流を深めるほどに彼らのリフレクション能力は高まっているだろう。指導主事の授業を見る眼の高まりは、教育センターの研究成果に表れている。だがそこにとどまっているような気がしてならない。「学校の指導は委員会で行うべきで、センターではない」という意識が、現場にも、センター側にもありはしないか。せっかく鍛えた洞察眼を活用して現場を変えるアプローチが望まれる。

も	○巻頭言P.1	○教育センター内部WebページP.4
く	○研修講座だより 2P.2	○研究員研修・コラムP.5
じ	○シリーズ～校内授業研究を進める 2～P.3	○教育センターひろばP.6

研修講座だより 2

10月までに実施した研修講座(一部)の概要を紹介します。

教職経験2年次教員研修講座(1組)

「企業等体験に学ぶ」

講座の概要

本講座は、教職経験2年次の教員を対象に、民間企業等における研修を通して、教職に携わる社会人としての職業意識の高揚を図るとともに、人間関係調整能力の向上を図ることを目的に実施しています。

本年度は、88名の先生方が、夏季休業中に18企業26か所での実務体験を中心に研修を進められました。

また、9月10日の講座最終日には、先生方がお互いの体験を交流して、研修を通して学んだことを見つめ直したり、体験を生かした今後の具体的な取り組みについて考えたりすることができました。



《受講者のアンケートより》

- 教育現場以外での体験は、今の自分を客観的に見つめるきっかけとなった。相手を思いやり、その人のために今、自分には何ができるのかを考えながら行動していきたいと思う。
- 研修期間中も感じたことだが、講座最終日に様々な企業で研修をした仲間と意見を交流したことで、改めて自己を振り返ることができた。これからの教員生活に対する意識のもち方に生かしていきたいと思った。
- おもてなしのプロの方から、人と接する仕事をする者としての姿勢を学ぶことができた。それも話だけではなく、人と接している場面から学ぶことができた。私自身が子どもたちにそのような場面を見せていくことができるよう、がんばりたいと思う。

学級経営改善講座

「学級経営の基本と改善の視点」

講座の概要

「学級経営改善講座」は、①学級経営の基本的な考え方について理解を深めること、②児童生徒理解に必要な知識・技能を高めること をねらいとして、本年度新たに開設した3日間の講座です。

第1日は、「学級経営の基本と学級経営案の作成」というテーマで、学級の機能と、学級としての機能を果たすための学級経営の考え方及び評価の観点について研修しました。第2日は、「子どもの心と子どもの居場所づくり」というテーマで、子どもの居場所づくりのポイントについて研修しました。最終日は、学級経営を自己評価し、改善の視点を具体化していく予定です。



「子どもの居場所づくり」のポイント

- **学級の機能**
 - 学習意欲を高め、学習を推進・充実させる機能
 - 自己肯定感や自己決定力等を高める機能
 - 協調性を涵養する機能
 - 協働性を涵養する機能
 - 規範意識を涵養する機能
- **学級経営の評価の視点**
 - 学級の機能が高まっているか。
 - 教師と児童生徒、児童生徒相互の人間関係(信頼関係)ができているか。
 - 学級の機能を高めるように、学級の活動を計画・実施し、評価・改善しているか。

学級の中に子どもの居場所をつくるためには、安心感のある中で、子ども同士が協同的にかかわり合えるようにすることが重要です。

例えば、次のような過程を経るように活動を工夫してみましょう。

- ①教師が、子どもの実態を踏まえて決まりを設定する。
- ②子どもが、決まりに従って活動する中で仲間とかわる。
- ③決まりがあることのよさ(決まりがあることによって安心して生活することができること)を認識する。
- ④別の活動場面における決まりの必要性を感じる。
- ⑤子どもが決まりを確認したり設定したりする。
- ⑥決まりに基づき子どもが協同的にかかわり合いながら活動を行う。(③から⑥を繰り返す)

シリーズ 校内授業研究を進める 2

3回のシリーズで校内授業研究の進め方について紹介しています。今回は、付箋紙法を用いた協議会の進め方についてです。

付箋紙を使うことのよさ

付箋紙法は、授業協議会を活性化するための方法の一つです。授業を参観した教師が、自分の見取り（授業を見て気付いたことや気になったこと等）を付箋紙に記録し、その記録に基づいて互いに意見を交換し、協議会を進めていきます。

付箋紙を使うことのよさには、以下のようなことがあります。

- **簡潔に記録できる…**授業協議会の時に、その時その時の見取りを思い出す手がかりとなる。
- **見せ合える…**みんなが閲覧できるように掲示することで、互いにどのような見取りをしたのかを把握できる。
- **分類・整理できる…**書かれた内容ごとに付箋紙をまとめることで、何に焦点を当てて協議をすればよいかということが具体化されてくる。

また、色の違う付箋紙を使うと、色ごとに見取りの内容を分類しながら記録することもできます。

これらのよさを生かして授業協議会を進めるためには、事前に「参観者が付箋紙に何を書くのか」ということと、「付箋紙をどのように活用して協議会を進めるのか」ということを明確にしておく必要があります。

付箋紙に何を書くのか

「参観者が付箋紙に何を書くのか」を明確にすることは、参観者の授業を見る視点を明確にすることでもあります。

付箋紙には、次のことを書くとよいでしょう。

- ① **子どもの具体的な姿**
- ② **①の背景となる教師の働きかけ（教材を含む）**
- ③ **①②に対する参観者の解釈**

協議会で、「よい授業でした」「子どもがよくがんばっていました」という発言がなされることがよくあります。この発言は、子どものどんな姿を見てよい授業と感じたのか、子どもががんばることができたのは教師のどんな働きかけによるものなのかといった、解釈の根拠となる見取りには触れていません。しかし協議会で話題にしたいのは、子どもの具体的な姿とその背景となる教師の働きかけです。そのために、参観者一人一人が、それらを授業で丁寧に見取り、具体的に記録しておくことが必要なのです。

次の2枚の付箋紙は、「子どもの具体的な姿を見取る」ということを視点に、ある国語科の授業VTRの同じ場面を見て書かれた付箋紙です。

付箋紙① それまで落ち着きのなかったAさんが、ワークシートになると一生懸命取り組んでいた。

付箋紙② 集中していなかったAさんが、ワークシートに集中した。Aさんと教材とを結び付けたものは何だったのか。ワークシートの中身を知りたい。

どちらもAさんの具体的な姿を見取っています。ワークシートに取り掛かる前に音読練習や、教師の発問に応じて教科書を読み取り、キーワードを見つける活動がありました。Aさんは落ち着かない様子で、教師が注意を促していました。ところが、ワークシートになると集中して取り組み、「もうできた」と挙手をし、教師の評価を求める姿が見られました。

付箋紙②には、子どもの具体的な姿に加えて参観者の疑問が書かれています。目の前の子どもの姿の背景となる教師の働きかけを追究しようとする姿勢が表れています。誰もがこういう姿勢で授業を見取っておくと、協議が深まっていくのです。

付箋紙をどのように活用するか

最近、付箋紙を使って協議会を進めている学校が増えてきています。その進め方を二つ紹介します。

まず、書かれた内容によって付箋紙をまとめ、内容ごとに、協議していくという方法です。それを協議会



前に印刷して配付する方法もあります。この方法は、大規模校で教員の人数が多く、発言が限られてしまうような場合に、学年毎などのグループで行います。少人数なので発言しやすく、協議が活発に行われやすいという利点がありますが、グループでの協議内容をどう全体に伝えていくか、一工夫が必要となります。

次に、付箋紙を拡大指導案や学習活動を時系列に示したものに貼付し、授業の流れに沿って、協議していくという方法です。

今、何について協議しているのが全体にわかりやすく、協議内容を焦点化しやすいという利点があります。どの付箋紙を取り上げながら、どんな視点で協議を進めるかなど、進行役が見通しをもつことが必要になってきます。

まずはどちらかの方法でやってみて、人数や発言状況等によって、それぞれの学校に応じた方法を模索するとよいでしょう。なお、付箋紙を使った協議会の進め方は、『授業研究ハンドブックⅡ』に詳しく掲載しています。是非参考にしてください。

いずれにせよ、協議会で追究したいと思うことを授業から見つけて記録しておき、忌憚なく意見を交わそうとする姿勢で協議会に臨むことが大切です。



●●●自己研修・校内研修・授業に活用できる●●● 教育センター内部Webページの紹介

教育センターでは、内部Webページを通して、先生方が教材研究や自己研修で活用できる教育情報や、児童・生徒が授業（実技や実験、調べ学習等）で活用できる教材等のコンテンツを提供しています。

次のような活用をしてみたいはいかがでしょうか。



活用例1 「ストリーミング」 研修講座の動画の活用



① 自己研修に活用する

「もう一度聞いて学び直しをしたい」「興味のあるテーマだったが、研修に参加できなかった」「よい内容だったと同僚から教えられた」という場合に動画配信が役立ちます。

日々の授業のヒントを得たり、教材研究に役立てたりすることができます。

② 校内研修に活用する

講座の内容と自校の取り組みとの共通点を見つけてテーマを設定し、全員で視聴してみましょう。その後、職員間で協議を行うことで、自校の研究テーマの共有化を図ったり、方向性を決めたりすることができます。

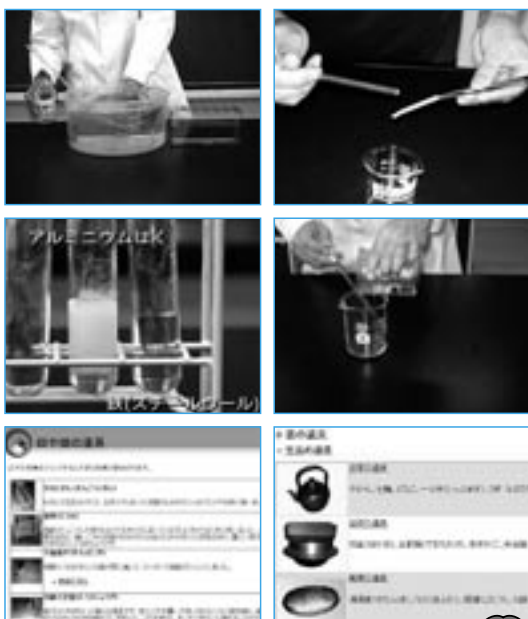
動画は内容ごとに分割しているので、研修の時間に合わせて必要な部分を選んで視聴できます。

<今年度新たに動画配信している講座>

○小・中・高等学校国語科授業改善講座 ～育成すべき言語能力を明確にした「書くこと」の指導の充実～	岡山大学教授 菅原 稔
○体力づくりに係る研修講座 ～進んで体力づくりに取り組む子どもを育てる指導の工夫・改善～	広島大学附属小学校主幹 大上 輝明
○心の教育に係る研修講座 ～幼児期からの発達段階を踏まえた豊かな心の育成～	広島大学教授 坂越 正樹
○教師のためのソーシャルスキル演習講座 ～子どもや保護者と信頼関係をつくるためのソーシャルスキルの理論と実践～	臨床心理士 勝部 奈美



活用例2 「教育用素材集」 教科のコンテンツの活用



① 実験の手順やポイントを学ぶ場面で活用する

理科の授業で実験を行う時、教科書を用いた説明や教師の演示だけで、すべての子どもが手順やポイントを理解することは難しいものです。子どもが自由に動画コンテンツを見ることができるようにしておくと、必要なところで静止させたり、何度も繰り返して見たりすることで、手順やポイントを押さえた実験をすることができます。

② 実験のまとめで活用する

実験の結果をまとめる学習や、実験の結果から考察をする学習の時、動画で実験を再度、擬似的に体験することで、見逃していた結果を、クラスの共通の事実として意識化でき、視点を明確にした学習のまとめができます。

③ 教員の授業準備で活用する

教員が不安を感じやすい薬品の扱い・作成や初めて行う実験も、正しい手順で、ポイントに沿って行えば、正確で安全に行うことができます。学習前の薬品の準備や予備実験に役立ててみましょう。

④ 子どもの調べ学習で活用する

社会科「くらしのうつりかわり」のコンテンツには、たくさんの昔の道具の画像が、説明とともに掲載されています。このコンテンツは、子どもの調べ学習で先生方によく活用されているコンテンツの一つです。

まずは教育センター内部Webページ
<http://192.168.9.12>
を開いてみましょう。



研究員研修について

今年度の教員長期研修（研究員研修）は、3か月（前期4～6月、後期10月～12月）の研修期間で計20名（幼稚園2名、小学校9名、中学校7名、高等学校2名）の先生方が研修を進めておられます。

主な研修内容は、次の通りです。

- 学校運営を支えるための資質能力の向上
（学校組織マネジメントに係る研修、学校教育の今日的課題に係る研修、校務運営充実に係る研修等）
- 「授業研究（校内研修）」「生徒指導」「特別支援教育」の推進に係る指導力の向上
- 教員としての意識及び社会性の向上（異業種体験研修、異校種での研修等）

これらの研修を通して、広島市の教育行政施策や喫緊な教育課題についての識見を深めるとともに、各専門分野・領域において、自己の実践の問題点を明らかにし、課題解決に向けた手だてを追究することによって、実践への見通しを研修成果物にまとめます。また、教師としての自分自身を振り返ることで、組織人として自らを問い直すなど、ミドルリーダーとしての資質・能力を高められる内容となっています。

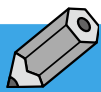
以下は、前期の研究員の先生の研修を終えての感想の一部です。



前期研究員の先生方

- 研修成果物を有効に使い、所属校の課題を見直し、新年度の研究テーマについて考えてみたい。
- 自らの実践や指導を同僚にオープンにし、課題や改善点を出し合い、連携し合えるリーダーになれるように努力したい。

これからも、研修で身に付けた力を存分に発揮し、各幼稚園・学校はもとより、広島市の教育の向上・発展のために貢献されることを期待しています。



コラム 「学習指導要領の改訂」

平成20年3月28日、小・中学校学習指導要領が告示されました。「生きる力」をはぐくむという現行の学習指導要領の理念は引き継がれ、①教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること、②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること、③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること、の三つの方針に基づき改訂が行われました。これらの基本的な考え方の下、今回の改訂で充実すべき重要事項として、次の六つが挙げられています。

- ①言語活動の充実 ②理数教育の充実 ③伝統や文化に関する教育の充実
- ④道徳教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥小学校段階における外国語活動

以上のことを受け、各教科等の内容の改善が図られています。教育センターには幼稚園教育要領解説、小学校、中学校の学習指導要領解説（各教科等）を揃えています。是非ご活用ください。



学習指導要領

教育の目的である「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成（教育基本法第1条）」を実現するために、各学校において編成される教育課程の基準を示したものが学習指導要領です。昭和22年に「学習指導要領一般編（試行）」が刊行されてから、社会の変化や子どもたちの現状を踏まえ、それぞれの時代において、先に述べた教育の目的の実現を図るべく、各学校段階において改善が図られ、概ね10年に一度改訂されてきました（過去の学習指導要領は<http://www.nicer.go.jp/guideline/old/>に掲載されています）。今回の改訂で7回目の改訂となります。

来年度から、教科によっては、新たな内容が導入される等、移行措置が実施されます。新学習指導要領を意識した授業づくり、教材研究を進めていきましょう。

教育センターひろば

●指導主事研究の紹介

今年度、教育センターでは、研究協力校や研究協力員の先生方に協力をお願いし、次の四つの研究に取り組んでいます。

研究主題	
担当指導主事	研究のねらい
ひろしま型カリキュラム導入に係る研究Ⅱ	
藤村 和彦 土井 延久 堂鼻 康晴 山領 勲	研究協力校における「言語・数理運用科」の授業分析を通して、思考力・判断力・表現力の見取り方やその評価方法について考察し、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりのポイントを整理する予定です。
人材育成を促す校内研修の在り方に関する研究Ⅱ	
島本 圭子 正原 直行 清水 剛	学校における人材育成を教員一人一人の「授業力向上」と考え、校内研修（特に授業協議会）をどのように進めていくことがより効果的であるのかを研究しています。多くの学校で活用できる内容となるよう研究を深めています。
教育用コンテンツの開発・作成に係る実践研究Ⅴ	
住吉 磨 岩田 浩一 高田 尚志	情報機器等を教材研究や指導の準備段階に活用するため、小学校理科、小学校体育科の教育用コンテンツの開発・作成を行っています。先生や子どもにとって「見て分かる」コンテンツを目指し、実験のポイントや模範演技等を映像化します。活用事例も紹介する予定です。
指定都市教育研究所連盟の第15次共同研究 今を生きる子どもたちの姿や思いを探る -学校・家庭・地域社会における生活や学習の継続調査を通して-	
大下 恵子 胤森 裕暢	全国15の指定都市で昨年実施したアンケート調査の結果を、過去のデータと比較し、今の大都市に暮らす小学生と中学生の生活や学習の実態と意識を明らかにします。本年度末には、調査研究報告書を各校に配付します。ぜひ活用してください。

●研究員

現在、教育センターでは、11名の先生方が、研修に取り組まれています。（後期：平成20年10月～平成20年12月）

研修内容：「授業研究（校内研修）の推進に係る指導力の向上」

作間 和恵（口田幼稚園） 檜山 枝美（東原中学校）
瀬良みづほ（長東西小学校） 前平 知代（安佐北高等学校）
吉田 嗣教（伴南小学校）

研修内容：「生徒指導の推進に係る指導力の向上」

河野 隆（藤の木小学校） 佐々木英三（庚午中学校）

研修内容：「特別支援教育の推進に係る指導力の向上」

竹内 美紀（船越小学校） 川崎 茂（安佐中学校）
川本美佐子（楽々園小学校） 入江 和行（口田中学校）

●教育センターからの案内

授業づくり支援センター

高等学校用教育図書コーナーの新設
新刊図書の配架
学習指導案1500点



教育センター3階の図書資料室、授業づくり支援室では、新刊や学習指導案を準備してみなさんのご利用をお待ちしています。



土曜開館（試行）今後の予定

開館日は以下のとおりです（下線はセミナー開催日）。

- 11月15日 ○ 12月20日 ○ 1月17日
○ 2月21日 ○ 3月21日

セミナーの内容

「学級経営・生徒指導セミナー」 11月15日 12月20日
「組織マネジメントセミナー」 1月17日 2月21日

編集後記

夏季休業中には、たくさんの方が教育センターの講座を受講してくださいました。今後も、みなさんの研修・研究等のお役に立てるよう努力していきます。授業づくり支援センター、内部Webページも一層の充実を図っていきますので、是非ご活用ください。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL (082) 223-3563 FAX (082) 223-3580
E-mail : center@edu.city.hiroshima.jp
外部Webページ : http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/
内部Webページ : http://192.168.9.12/